

民主化闘争情報

No. 943

2016年11月16日

発行 日本鉄道労働組合連合会

(JR連合)

11月14日、JR連合に加盟するジェイアール・イーストユニオン（JREユニオン）の仙台地本で東労組から組織拡大したとの連絡が入った。時あたかも、東労組では「スト権確立」にむけた一票投票が各機関で行われているようであるが、この行動に対して将来に不安を感じている東労組組合員が少なからず存在しているという証左だろう。

JREユニオンが組織拡大 スト権投票で将来不安、東労組より加入

東労組の運動に感じていた疑問や所属することに不安！

今回、JREユニオンに加入した組合員が決断した背景には、従来から東労組の運動に疑問を感じていたことに加え、職場内で何も活動がない中で、最近になって「スト権アンケート」を求められたことに対して、東労組に所属することで将来に大きな不安を感じたことがあるようだ。

JREユニオンは、「会社の労政は加入する労働組合での差別・選別はない。会社と向き合い、信頼関係が築ける労働運動を展開するJREユニオンを信頼していただき、安全で安心して働ける職場づくりに良識ある社員の結集を」と呼びかけている。

JR連合及び加盟する99単組81,000人の組合員は、今回加入した組合員を心から歓迎するとともに、更なる加入につなげる呼びかけ行動を展開していただき、組織拡大につなげていただくよう要請する。

労使が自由闊達に議論できる環境づくりへ決断求める！

東労組は、スト権確立の職場討議資料で「スト権議論と労使共同宣言は対立する概念ではない」と独自の主張を展開している。また、会社による「この間の職場活動の規制・排除や団体交渉における不誠実な姿勢」「安全よりも施策を最優先した一方実施」を挙げるなど、今回のスト権議論の目的が春季生活闘争での要求実現ではないことは最早明らかになっている。

会社には、既に有名無実化している東労組との「労使共同宣言」について、この機に再考を促すとともに、労使が自由闊達に議論でき、社員が生き生きと働ける環境づくりへ「重大な決断」を下すことを望むものである。

今こそJR連合・JREユニオンに結集しよう！